

2026 年 2 月 3 日

臨床データ利用のお願い

海南病院では、以下の研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報を研究目的に利用されることをご希望されない場合などお問い合わせがありましたら、お手数ですが以下の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

Hydroxyapatite/Poly-L-Lactide Mesh Tube Versus Granular β -Tricalcium Phosphate in Locking Plate Fixation of Proximal Humeral Fractures: A Retrospective Comparative Study

上腕骨近位端骨折に対するロッキングプレート固定における HA/PLLA メッシュチューブと β -TCP 顆粒移植の後ろ向き比較研究

2. 研究責任者

海南病院 整形外科 岩田英敏

3. 研究の概要

上腕骨近位端骨折は成人の全骨折の 5%と多く、手術治療としてロッキングプレート固定が行われることが多いです。しかしながら、手術時に骨頭骨片のずれを整復すると骨欠損が生じ、術後再転位の原因となります。この予防のため、従来は β -TCP 人工骨顆粒を骨欠損部に充填していましたが、顆粒では骨頭骨片を十分に支えられないといった問題点がありました。我々は 2017 年より HA/PLLA 人工骨メッシュを円柱状に加工して髄腔内に挿入する髄内支柱法を行なっています。本研究は成人上腕骨近位端骨折に対するロッキングプレート固定術における骨欠損部補填材料としての HA/PLLA メッシュチューブと、 β -TCP 人工顆粒の臨床成績を後ろ向きに比較検討することを目的とした単施設観察研究です。

2014 年 4 月から 2022 年 11 月の間に当院で手術を施行した成人上腕骨近位端骨折患者さん 42 例を対象とし、HA/PLLA メッシュチューブ使用群 20 例と β -TCP 使用群 22 例に分けて解析します。

主要評価項目は術後から最終観察時までの上腕骨頭高および頸体角の変化とし、副次評価項目として最終観察時の肩関節可動域、手術合併症、手術時間、出血量を評価します。

4. 研究方法

① 対象となる患者さん:2014 年から 2022 年までに上腕骨近位端骨折に対して骨接合術の手術をうけた患者さんのうち、2014 年 4 月から 2017 年 10 月までは β -TCP 人工顆粒を使用した患者さん、2017 年 11 月から 2022 年 11 月までは HA/PLLA メッシュチューブを使用した患者さんが対象です。

また、(1)急性片側閉鎖骨折、(2)術後 6 か月以上当院通院治療歴あり、(3)ロッキングプレートを用いた治療を行った、という条件を満たす患者さんが該当します。

②使用する試料等

残余検体：なし

カルテ情報：性別、年齢、使用した手術材料、単純 X 線像の所見、手術合併症、手術時間、出血量

5. 個人情報の取扱い

貴重な患者さんの個人情報は、「個人情報保護法」及び「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」など各種法令に基づいて管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

6. 問い合わせ先・相談窓口

JA 愛知厚生連 海南病院 整形外科 岩田英敏
電話：0567-65-2511（代表）